

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 数理・データサイエンス・AI教育検討委員会

(責任者名) 天谷 文昌
 (役職名) 教育センター長(副学長(教育担当))

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本学では、医学部医学科および看護学科を対象として、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的素養を身につける教育プログラムを実施している。医学科では「情報リテラシー」「生物統計学」「医療統計学」「生命倫理学」等を中心として、看護学科では「情報科学」「生命倫理」を通じて、データ活用やAIリテラシーに関する教育を展開している。授業内演習や課題等を通じて、基礎的知識および活用能力の修得状況を確認している。
学修成果	本プログラムでは、データサイエンスや生成AIに関する基礎知識に加え、医療現場におけるデータ活用、統計解析、情報倫理等について学ぶことで、医療DX時代に必要となる素養の修得を目指している。実践的な演習や事例紹介を通じて、学生が主体的にデータやAIを活用する能力を養っている。
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	授業アンケートでは、「目標と内容」「明瞭な説明」「主体性」「満足度」等の項目において概ね高い評価が得られている。特に医学科「情報リテラシー」では、各項目がおおむね4点台前半～後半(5段階評価)であり、学生の理解度および満足度は良好であった。
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	授業アンケートにおける満足度や主体性に関する評価結果から、本プログラムは学生に肯定的に受け止められていると考えられる。生成AIやデータ活用を実際に体験しながら学ぶ授業構成により、学習意欲の向上や他学生への推奨につながっている。
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況	本学では、数理・データサイエンス・AI教育の全学的推進を進めている。医学科では既に履修を前提とした教育を実施しており、看護学科においても今後の履修必須化を視野に教育内容の整備を進めている。生成AI等の技術進展を踏まえながら、継続的な教育改善と履修率向上に取り組む予定である。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは、医療現場や研究分野において必要となるデータ活用能力およびAIリテラシーの基礎形成を目的としている。将来的には、医療DXや臨床研究等に対応可能な人材育成につながることを期待される。今後は卒業生の進路や活躍状況等について継続的に把握し、教育改善に活用する予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	近年の医療DX、生成AI、データ駆動型社会の進展に伴い、医療分野においてもAIリテラシーやデータ活用能力の重要性が高まっている。本プログラムでは、実践的なAI利用体験や情報倫理教育を取り入れ、社会的要請に対応した教育内容となるよう継続的な改善を進めている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	生成AIを活用した演習や、医療データを題材とした実践的授業を通じて、学生が「AIを使う体験」を主体的に行える授業設計としている。医療現場や研究活動におけるデータサイエンス・AI活用事例を紹介することで、学ぶことの意義や将来的な活用可能性を理解できるよう工夫している。
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	授業アンケート結果や学生からの意見を踏まえ、教育内容・教材・演習方法の継続的改善を行っている。特に生成AI等の新技術を踏まえた教育内容の更新を進めるとともに、実際にAIを活用しながら学ぶ実践型授業を導入している。また、情報倫理、ELSI、AIの限界やハルシネーション等についても扱い、批判的思考力を育成する教育を実施している。